

2019 年度 センター試験 地理B (本試験) 分析

全体概況

試験時間 60 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：35 問
難易度の変化（対昨年）	○ 難化 ○ やや難化	● 変化なし ○ やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年）	○ 増加	● 変化なし ○ 減少
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし

総評

問題数は昨年と同じく 35 問。全体としてオーソドックスな問題で、際立って難しい問題も出題されなかった。過去問を使ってきちんと対策してきた受験生にとっては十分な得点ができる問題であった。第 2 問の問 2 では、シンプルな単語選択問題が 2015 年度以来 4 年ぶりに出題された。昨年はムーミンが登場する問題で話題となったが、今年はそのような問題はなかった。

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	世界の自然環境と自然災害	17 点	問 1 は土壌と植生、問 2 は地形断面図、問 3 は季節による河川流量変化、問 4 はハイサーグラフ、問 5 は温暖化とその影響、問 6 は熱帯低気圧の進路と幅広く出題された。問 5 の北極海の海水の問題は地図から推測する力が求められた。
第 2 問	資源と産業	17 点	すべての問題がコーヒーを絡めたものであった。生産量の変化、原産地、流通、関連産物(砂糖や牛乳)、貿易、事業所分布(喫茶店など)と、コーヒーについて比較的深掘りした出題であった。主要な生産物については多様な知識を持っておきたい。
第 3 問	都市と村落、生活文化	17 点	問 1～3, 5 については都市計画、機能、河川との関係について。問 4, 6 については宗教や文化、レジャーについての出題であった。問 6 の分布図の問題は教科書ではあまり扱わない項目についての出題であったが、分布の偏りを見れば問題なく解答できる。
第 4 問	地中海沿岸の地誌	17 点	南ヨーロッパから西アジア、北アフリカの地域について、気候、海峡、農業、貿易、都市、移民と幅広い出題であった。問 6 は近年のヨーロッパの学習には欠かせない移民問題についての出題で、地理的關係と旧宗主国などの知識を駆使して解答するやや難しい問題であった。
第 5 問	ウクライナとウズベキスタン	14 点	両国について自然環境と気候、産業、経済、食生活、言語と多様な視点の出題であったが、両国の特徴を理解していれば難しい問題ではなく、きちんと得点できる。
第 6 問	宮崎市とその周辺の地域調査	18 点	交通、観光、地形図、開発、農業、口蹄疫について出題された。新幹線開通による所要時間の変化の問題は目新しい出題であった。口蹄疫については感染と道路の関係を考える問題。地図をよく見れば問題なく解答できる。